

ご無沙汰しております。  
みなさまお元気でいらっしゃいますでしょうか？  
リヤド日本人学校の河井でございます。  
すっかりごぶさたをしてしまい、申し訳ありません。  
昨年1年を振り返っての報告をさせていただきます。



さて、リヤド日本人学校は、今年度、新しく校長先生とお二人の先生を迎え入れました。

ただ、これにもアクシデントがありました。

日本人学校の校長は、3月中旬に赴任し、前任者と引き継ぎをすることになっています。

今年も3月12日には新しい校長先生が赴任することになっておりました。そして、その当日、われわれは空港に迎えに行く準備をしていました。そこにかかって来た一本の国際電話。新校長からでした。内容は「ビザが下りなくて、今日は行けなくなった」というものでした。

サウジではよくあることなので、最初のうちは、我々も楽観していましたが、その後一週間たってもビザ取得のメドがたたず、最初成田待機だった新校長は、とうとう地元に戻され、自宅待機になってしまいました。

旧校長は予定通り17日に帰国。結局校長同士の引き継ぎはできずじまい。

私が校長職務代行として、その後の事務を引き継ぐことになりました。

その後、ビザの問題は国際問題化していることが発覚。新校長だけでなく、新しく赴任する予定のお二人も来られない可能性が出てきました。

しかも最悪の場合、一学期いっぱい来られない可能性もあるとか・・・。

本校には帰国を控えた中学3年生が3名おり、授業をしないわけにはいきません。残された教員は私を入れて3人。この3人だけで一学期回すための時間割を作成し、最悪の事態に備えました。

その後、事態は在サウジアラビア大使館の皆様のご尽力により急転直下好転し、4月の6日には校長とお二人の先生を迎えることができました。

入学式と始業式は、予定より1日遅らせるだけで、すみません。しかし、この3月から4月にかけては本当に大変でした。

ここ、サウジアラビア王国の首都・リヤドでは5月に例年になく大雨が降り、低地では洪水となり死者もでました。

もともと雨の降らない地域なので、排水設備が整っていないところに、大雨が降ったので、大変なことになりました。

幸いにして、我々日本人学校周辺には被害がありませんでしたが、大雨の次の日は、国王の命令で臨時休校にせざるを得ませんでした。



モスク(マスジエット)

我々日本人学校の教員には、現地の教育活動についての調査・報告義務があるのですが、ここ、サウジアラビアでは、なかなかそれができません。

なぜなら、学校が小学校のうちから、男女別だからです。我々男性教員は女子校には入れません。現地の学校と交流を持ちたくても、男女別ではどうしようもないのです。

例外は幼稚園(プレ・スクール)です。今年度もサウジのプレ・スクールの子たちが日本人学校を訪問しました。

このプレ・スクールは、王族の子も通うハイソサエティでお金持ちばかりのプレ・スクールです。制服を着ていたのが印象的でした。

ちなみにサウジの学校では、主に教えるのはコーラン(イスラム教の経典)だそうです。

朝7時くらいから学校が始まり、お昼のサラ(お祈りの時間11時30~12時くらい。時間は毎日変わります)まででおしまいです。

夏休み等も長く、我々日本の教員からしてみたら、「いったい、いつ勉強してんだ?」と思わざるを得ません。

2009年のラマダン(太陰暦9月=断食月)に日本を特集したTVがサウジで放映され大反響を得ました。日本の風俗や習慣に、サウジの人は大変おどろいたようで、しかもそれを「素晴らしい」と感じてくれたようです。

特に教育やしつけに関する部分は、驚きと共感を持って受け入れられたようで、たまに会うサウジの人は口々にそれを口にします。

このTVの放映後、「日本人学校に子どもを入れたいのだが」という電話が、しょっちゅうかかって来るようにもなりました。(もちろん丁寧に断りしておりますが)

6月には、サウジの大学の職員が本校を視察に来ました。なんでもそのTV番組をみて「ぜひ日本風の教育システムを取り入れた学校を作りたい!」と思ったのだそうです。

そんな単純な動機で学校を作ることを決めていいのかと、一抹の不安を覚えました。参考になるならばと、とりあえず来ていただくことにしました。授業を見ていただき、カリキュラム等も説明させてもらいました。

その結果・・・本当は一日中視察するはずの視察団が午前中で帰ってしまいました。

その理由は・・・「日本風の学校作るのはとても無理だと分かった」からだそうです。

「来る前に気づけよ!」って話ですけどね。

サウジは5月末から、連日46度を超える毎日です。日当たりのよいところなどは60度近くになります。

リヤドの緯度はおよそ北緯24度です。地球の地軸は公転面に対しておよそ24度傾いているので、

夏至の日の正午、リヤドでは天頂に太陽が南中し、ほぼ頭の真上から直角に日光を浴びることになります。（南中高度が90度になる）

その結果、影は日差しを遮るものの真下にしかできません。自分の影は自分の足元にしかできなくなるのです。頭の真上から、太陽が照りつけます。



さて、そんな暑いリヤドでは、体育の授業を夏の間は外でやることができません。

暑くて死んでしまいます。

ですから室内でマット運動等をやるか、水泳をやるしかありません。

日本人学校にはプールがないので、近くのコンパウンド（外国人居留所）のプールを借りて行きます。年10回行きます。日本とちがって、「天気が悪くて中止！」なんてことには、絶対ならないのがいいです。

不思議なもので、プールに入る前、プールサイドに立っているときは、40度近い暑さにまいるのですが、一度シャワーを浴びたら、同じプールサイドが寒くてたまらなくなります。

空気がとても乾燥している（湿度はひとけた）ので、あっという間に体についた水滴が蒸発し、その際、体の表面から気化熱をうばうのです。気化熱というものが、どういうものなのか、体感できます。

風なんか吹こうものなら最悪です。寒くて震えあがってしまいます。そんな時はさっさと水の中に入るのが一番です。

本格的なプールなので、いちばん深いところで3メートルくらいの水深があるのですが、子どもたちは平気で泳ぎます。

大変なのは私たち教員です。いちばん深いところで待機するためには、立ち泳ぎを続けるか、プールサイド、またはコースロープにしがみついてなければいけません。これは結構疲れます。

そんな水泳学習も来週で最終回。再来週は水泳記録会が行われ、その次の日は終業式です。

夏休み中、リヤドから日本人はほとんどいなくなります。ほとんどの人が日本に一時帰国したり、ヨーロッパをはじめ世界各国にバカンスに出かけてしまったりするからです。

それだけサウジでの生活は過酷だという証です。

私たちが昨年の夏休みはフランスに出かけました。

今年は日本への一時帰国ができます。

私たちが7月末から、一時帰国をさせていただきました

サウジでは口にすることのできない、アルコールと豚肉を存分に楽しんだところでした。

また、この一時帰国中には、地元の幕別町立白人小学校にて特別授業もさせていただきました。  
予定外のことでしたが、よい思い出になりましたし、わたしも「自分の体験の教材化」という自分の研修テーマを深めることができました。

二学期が始まると、日本人学校はすぐに運動会の準備にかかります。

リヤド日本人学校の運動会は、リヤドの日本人会の運動会と合同で行います。

リヤドに住む日本人（およそ200名）が一同に会して運動会を行います。

これも、水泳授業と同じで、「雨で中止」ってことがないのがいいです。（過去に1度だけ雨が降って中止になりましたが）ただ、「テロがあって、今年は運動会中止！」なんてことも、過去にはあって、これはサウジならではの中止理由だと思います。

運動会も終わって、11月にはハッジ休暇がありました。

イスラム教の宗教的な休日で、約一週間あります。

イスラム教徒の方々には大変大切なもので、この時期にメッカに巡礼に行くのが、一生に一度の大切な儀式なのです。

世界中のイスラム教徒が、聖地メッカにやってきます。

私たちの庭の掃除と車を洗ってくれているワーカーさんも、学校のガードマンさんも、このハッジにメッカに巡礼に行きました。行く前から、とても楽しみな様子で、何度も「これからメッカに行くんだ！」と自慢されました。

さて、このハッジが終わって、帰ってきた二人を見てびっくり！

なんと二人とも頭を丸坊主にしているではありませんか！

話を聞くと、巡礼中に頭を丸める時期（義務ではないが、そうして方がいいらしい）があるのだそうです。

頭を丸める宗教は仏教ぐらいだと思っていたのですが、意外な風習があるものです。

ついですが、この時期、イスラム教徒ではない日本人は、やはりリヤドからいなくなります。（我が家はローマに行きました。）

12月には、思わぬゲストがありました。

校長より「サウジの大学生が日本の教科書と教育システムについて勉強したいと言っているので、対応してほしい。」との指示を受けたのです。

お相手はサウジ人女性（既婚）で、大学院生だと言います。「例のTV番組を見て、日本に関心を持った」とのこと・・・私は正直「またか？」と思いました。1学期のとんでもない学校訪問があったばかり





りだったので、「また途中で投げ出すんじゃないか？」と疑心暗鬼になってしまいました。

しかし、実際に会ってみると、これがものすごく勉強熱心な方で、自国の教科書を再編するために、日本の教科書を参考にしたいと、次々に質問をしてくれます。

「午前中2時間ぐらいで終わるだろう」と思っていた私の予想を裏切り、朝7時半から午後3時半まで、ピッタリと学習していかれました。授業があるので、当然私一人では対応しきれず、現地採用のアラビックの先生と英語担当の先生と3人で入れ替わり立ち替わりお相手をさせていただきました。

お話をさせていただくなかで、サウジの教育システムや、教科書の様子について、こちらが学ばせていただいたことも多々ありました。

私たちにとっても大変貴重で、充実した時間になりました。

今方は後日再び本校を訪れ、これからも定期的に情報を交換することとなりました。



## イスラムの正装 トーブとアバヤを着て

リヤド日本人学校

河井義徳

さて、そうこうしている間にあっという間に2学期も終わり、冬休みになりました。

リヤド日本人学校の冬休みは、北海道の学校の冬休みに比べると短く、1月の4日から学校がスタートします。

2011年が、みなさまにとって良い年となりますことを、遠く砂漠の地リヤドよりお祈り申し上げます。